

ターンテーブルはなぜ美しいのか

季刊・アナログ

令和8年8月15日発行（年4回刊） 第22巻第4号通巻92号 ISSN1349-595X

analog

2026
SUMMER
vol. 92
Phile
web

アナログオーディオ&ゆとりライフマガジン

ターンテーブルの
オーディオ評論家、写真家、設計者が語る機能美
フオルム語り

名演奏家深掘り
ジヨルディ・サバール

小さな円盤から迸る鮮烈サウンド
7インチが好きだ!!

低騒音仕様のモーターを採用

超音波式クリーナーのパイオニアが パワーアップして日本再上陸

独GLASS-AUDIO DESK SYSTEMEのVINYL CLEANERは、今世紀初頭に輸入され、注目を集めた超音波式レコードクリーナーの先駆者的モデルである。今回新たに登場したVINYL CLEANER premiumは、低騒音仕様のモーターを採用し、前モデルよりも静音化を実現したグレードアップモデルである

Text by
炭山アキラ
Akira Sumiyama
Photo by 田代法生



GLASS-AUDIO DESK SYSTEME VINYL CLEANER premium

全自動レコードクリーナー
¥825,000(税込)

Specification

●12インチ(30cm)レコード用(アセテート盤には使用不可)●電源：+24V・DC 70VA 専用ACアダプター付属●サイズ：300W×270H×200Dmm●質量：5.5kg(洗浄液を含まず)●専用洗浄液(2本)付属●オプション(各税込)：専用洗浄液(2本組) ¥8,800、専用フィルター ¥4,400、専用ブラシ(4個セット) ¥17,600、7インチ盤キット ¥77,000、10インチ盤キット ¥77,000

さらなる静音化を
実現して再上陸

レコードクリーニングマシンには、いくつか代表的な方式がある。最もよく普及しているのは、ターンテーブル上で薬液を振りかけた盤を磨き、汚れた薬液をバキュームで吸い取るタイプのものであろう。かつては全自動で精密な洗浄と吸引を行うハイエンド機も存在したが、現行商品は盤を回しながらブラシやクロスで手磨きする、半自動タイプのものが主流である。もう一つは超音波洗浄機で、こちらも全自動タイプとあって乾燥工程を人の手に委ねるタイプがあり、メーカーの哲学がいろいろと垣間見える。

ところで、かつてサエクコマースが輸入していた全自動レコードクリーニングマシン、独GLASS-AUDIO DESK SYSTEME社の、その名もVINYL CLEANERという製品をご記憶だろうか。高品位のクリーニングマシンが数々登場し始めた、まさにさきがけに当たる頃の製品だったという印象が残っている。「そういうのは最近見かけない

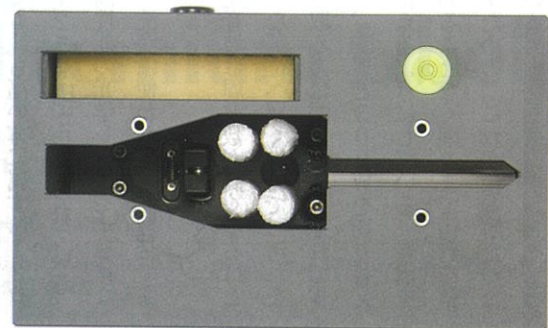
な」と思っていたら、同社製品はしばらく輸入が途絶えており、この5月に日本へ再上陸を果たしたというのだ。製品はもちろんクリーニングマシンで、かつて見慣れた形状とよく似ているが、商品名に「Premium」と付記されている通り、新世代の上級製品となっている。こちらは、第3の方式、というべきか、タンク内に満たした洗浄液の中で盤に超音波を照射しつつ、円筒形のクリーニングブラシが電動で回転しながら盤面を磨くタイプである。

基本的には、タンク内に4.5リットルの精製水を満たし、そこに専用の洗浄液を投入、あとは盤をスロットに差し込んでスイッチを入れればクリーニングが始まり、乾燥まで全自動で行ってくれる。全体に音が静かになっているが、静音タイプのモーターが新たに採用されたのだという。洗浄方式は、レコードを回転させながら4本の円柱形ブラシが表裏面にそれぞれ時計回りと反時計回りで盤面を磨くものだ。あまり詳しくを語らない同社ではあるが、洗浄液とブラシに同社の勘所があると、個人的には推測している。ブラシ

の正転・逆転が同時に行われるため、ディスク自体を反転させる必要はない。クリーニング時間は1〜5分の間で調整可能で、乾燥時間は5分で固定されている。アセテート盤は洗浄できないが、7インチや10インチは別売のアダプターで対応可能だ。

微小域が生きてきと
耳へ飛び込んでくる

今回は、レコード棚の奥で20年ほどアクビをしていた盤を引っ張り出して磨いてみた。洗浄時間は5分に設定する。見た目さほどの汚れが乗っているように見えなかった盤ながら、60年も前の高度成長期に録音された歌謡曲だから仕方ないかと思われた、どこことなく茫洋としてサラツキの目立つ音質が、まさに積年の埃を拭い去った窓で青空を見ようような爽やかさ、昭和歌謡で往々にして聴くことのできるハツとするような声の実体感と生々しさ、歌手の歌を何よりも最優先にした録音手法が、一気に耳へ届くようになったことに感激する。うん、せっかくクリーニングするならこうこなくちゃ、と思わず膝を叩いた。



真上から見た本機。4個のクリーニングブラシが回転し、レコードを洗浄する



専用の洗浄液(25ml)。精製水4.5lに対し20mlを使用し、約100枚のレコードが洗浄できる



スイッチは電源用とスタート/コントロール用の2個とシンプル。運転状況はランプで表示される

興に乗り、続いて我がレファレンス盤を磨いてみることにする。結構こまめに手磨きしている盤で、音溝のコンディションはしっかり管理しているつもりなのだが、本機で磨いた後に改めて針を落とすと、スクラッチノイズが耳につかなくなり、微小域が生きてきと耳へ飛び込んでくること、ドラムスの強烈なアタックやヴォーカルのシャウトが屈託なく伸びることに感激する。

個人的には長年手磨きの技を高めてきたという自負があるし、それなりに盤の内容をしつかり引き

出しているように自己満足していたのだが、こういう冷徹な現実を突きつけられると、もう脱帽の他ない。

本機には洗浄液が2本付属しているし、もちろんそちらを使い切ったら別売で入手可能だ。さらに、洗浄水の汚れを濾し取るフィルターやクリーニングブラシ(4本1組)もしっかり必需品として準備されているから、長く使うことができるだろう。スペースもさほど取らないし、手間いらずに高品位のクリーニングを行えるマシンが再登場したことを喜びたい。